カトリック高松教区報

2007年1月1日（第115号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

今年の目標は「宣教」

新年のあいさつに代えて

高松教区長　溝部　脩

昨年一二月に「教書」を発布したばかりですので、今年は恒例の年頭書簡に代えて、教区報の紙面をお借りして教区の皆さまに新年のご挨拶を送ります。今年もご厚情を賜るようにお願い申し上げます。

昨年一一月二八日、昨夏行われた「ポストコングレス in 高松」の後を受けて、どのように宗教者の集まりを継続するのかを、高松市の仏教会の代表と話し合いました。「宗教者平和会議」という名称で、定期的な会合を重ねることで合意し、「京都宣言」を勉強し直すことから始めて、お互いの宗教を理解する努力目標をたてました。ひいては私たちが住む四国に宗教者としてのメッセージを送ることにしています。「京都宣言」とは、昨夏行われた「世界宗教者平和会議」で出された平和に関する宣言のことです。

四国宗教者平和会議で話されたことで、特に私の印象に残ったのは、次のようなことばでした。「京都宣言」を一緒に読み直し、それを自分の宗教のことばに置き換える作業を行うといったことでした。

自分が信じていることを自分のことばで述べること

聖フランシスコ・ザビエルの祝日に
（於：桜町教会）

キリスト教が「平和」と使っていることばを、仏教では何と表現するのでしょう。非常に興味深い今からの対話のあり方を示唆しています。私たちが当然のように使っていることばを、他の宗教と比較することで、もっと深い意味に到達できることになります。

自分のことばで真理を表現するに到るまで到達しないところに、キリスト教の弱点があるように思われます。

今年は「宣教」を目標とすると決定しています。内部のことに主に目を向ける「司牧」型の教会からの脱皮を意味しています。高松教区は内部のことに終始することで十分苦しんできました。今は目を現代社会に、共に住む四国の人々に目をとめる時がきたと思っています。ここで先刻から述べている、「宣教」とは何かという壁にぶつかります。今年一年をかけてゆっくりとこの問題を掘り下げていくことにしましょう。「宣教」ができるには、自分が信じていることを自分のことばで述べることができるということが大事になってきます。各共同体でこの意味を深めることをお願いします。

主な記事

2、3面　高松教区各教会の抱負
3面　医療のともしび～新連載
4面　終身助祭誕生…西川康廣師
6、7面　徳島・高知・香川地区の教区民のつどい
8面　高校生の集いの案内

はばたき

改革を旗印にした小泉政権が終わり、安部新政権が新しい年を迎えた。小泉政権の功罪については評価の分かれるところであるが、こと外交問題に関しては多くに課題を残した。

◆国家の主権と主権がぶつかり合う問題の解決はきわめて困難である。団体や個人においても同様であり、互いの主張が拮抗する問題は容易に解決できない。しかし世の中には解決できないという解決法もある。「平和な暮らしを目指すなら、対立を超えた模索をすべし」と歴史が教えている。

◆人間は多様であり、いろいろな性格や考えが方ある。完全に一致することはあり得ない。しかし、例え人間的に一致することができなくても、われわれはキリストを中心とした霊的一致をはかることができる。そしていま、教区が前進するには何をすべきか、何ができるか、対立を超えた模索が求められている。

新年明けましておめでとうございます

各小教区の抱負

［香川地区］

坂出教会
日曜日のミサを信仰生活の中心として、ひとりひとりの毎日の生活の中で常に神様へ奉献し、またこれに基づきキリスト者として社会に貢献する。

桜町教会
主日のミサを大切にし、信徒一人ひとりがそれぞれのミサ奉仕を務めるように。
また、高松地区の協力宣教司牧がより充実したものとなるよう努力していきたい。

桜町教会

三本松教会
荒波の中、灯台を探す小舟のように、主の道しるべに敏感に。
今年も、心ひとつに活動できる小教会でありたい。

小豆島教会
二メートルを越す高山右近の立像が手に入ります。これを機に小豆島でしか体験できないユニークな小教区づくりを目指します。

善通寺教会
二〇〇六年の教区テーマであった「聖体」を今年も継続して深め、ミサが生活の源泉となるよう工夫していきたい。また、「教会のカテキズム」の勉強会を続け、信仰の補強を図っていきたい。

番町教会
協力宣教司牧体制のもと、信徒一人ひとりがイエス様からのお恵みに満たされて、一致協力して、生き生きとした教会づくりに励みたい。

丸亀教会
①子供達に信仰心を！
　教会学校や信徒間で
②祈りのグループを！
　日曜学校、聖書の集いで
③高齢者、病者への配慮！
　ミサ送迎と訪問

［愛媛地区］

今治教会
ほのぼのとした助け合いの中で、信徒一同一致して主日のミサを大切にし、心を込めて捧げます。そして出発！

伊予三島教会
三十数年前、スペイン宣教会の神父によって蒔かれたからし種はこの地に根付き、細々ですが、生き続けました。
今年もこの地で、主の教えを守り、御言葉を伝えるゾー。

宇和島教会
フィリッピン帰化女性を信徒会メンバーのレギュラー化を実現する。
「共に喜びをもって生きる」共同体作りに努力し、役員会は将来の見通しと展望をはっきりさせる。

道後教会
協力宣教司牧体制のスタートと共に始まった聖書研究会など信徒の養成に力を入れたい。
信徒一人ひとりがキリスト者として生きる方向を見出し、主の御旨を行う教会づくりを更に前進させたい。

郡中教会
小さな家族が大きな家族（協力宣教司牧体制）の仲間入り。共に歩み、共に若者を待ち望む。

西条教会
私達の教会は人数は少ないが、子供が多い教会です。
子供達と共にイエス様の教えの学びを深め、信徒の輪を広げていきたい。

新居浜教会
小教会を十一年、再生と自立に導かれた神父様が去り、新たに就任された神父様と共に「教区の一致」に、更なる実践を進めたい。

松山教会
社会と接点がある開かれた教会、一人ひとりを大切にする暖かい教会、若者が役割を担う元気な教会を目指したい。

松山教会

八幡浜教会
教会に隠されている素晴らしい宝を、子供からお年寄りまで、皆で発見したいと思います。
家族的な明るい教会でありたいです。

［徳島地区］

阿南教会
信徒間のつながりと一致をめざします。一人住まいの高齢者が多いので、声を掛け合ったり、教会から遠のいている信者への連絡、そして年二回の遠足などを通じて、共に信仰の道を歩む教会にしていきたいです。

徳島教会
最近、主日ミサに欠席する信者が目立ってきました。いろいろ事情があるかもしれませんが、みんなそろって出席できますように。また、信徒ホールの新築が予定より遅れています。早く立派なホールが完成出来ますように。この二つのことを切にお祈りしています。

徳島教会

鳴門教会
世界中の一人ひとりが担っている、人類家族の平和を構築する責任を自覚し、祈りと協力に心掛けます。

［高知地区］

赤岡教会
御ミサは授けて頂くもの、との意識から卒業し、信徒みなが何らかの務めを果たせるようありたいものです。

安芸教会
マリア様に助けられながら皆で分かち合う小さな教会、大祝日には、食事を共にし、信仰の火を今年も守っていきます。

江ノ口教会
高知駅前の住宅開発が進み、教会の周りには新しい町が生まれます。同時に小教区評議会が発足し、一同「仕える愛」をこの地域で現したいと考えています。

中島町教会
現在、行われている協力宣教司牧（中島町・江ノ口両教会）が神の御旨にしたがって歩んでいきます。高松教区の再生のため、司教様と共に。

中島町教会

中村教会
当中村教会では、昨年一二月から外国の信者さん達との合同ミサをスタートしました。これはフィリッピンの信者さんからの強い希望があり、いろいろと話し合った結果合同ミサをすることになりました。この合同ミサは一一時から行っています。この合同ミサを長く続けていきたと思っています。

医療のともしび（1）
～最近の医療報道を憂う～

ほとんど毎日といっていいほど、医療報道があります。良い医療報道より、医療過誤や医療ミスという内容が多いようです。普通の経過で診断治療される予定だった患者さんに重い後遺症や最悪な場合死亡するという、なんとも重い内容の報道です。

ここでみなさんに考えていただきたいことがあります。日本の医療機関や医師はレベルが低いのでしょうか、こういうミスは近年増加したものなのでしょうか、また何が原因となっているのでしょうか。

一方で我々医師側の変化も出始めています。忙しい、責任が重いといって、産科・小児科の勤務医師の全国的な減少や、内科医師が半減した病院が地域に出始めています。リスクの大きい科を担う勤務医が減り、また病院もそういう科を持ちたくないという傾向がでてきています。勤務医が減少し、開業医が増加しているのです。少子化が叫ばれていますが、これからの日本は安心して健康に子供を産み育てることができるのでしょうか。

これからの勤務医の動向について、患者が病院で医療を受ける時の心得などが、よく書かれた本を紹介します。ぜひご一読をお勧めします。著者は虎ノ門病院の泌尿器科部長です。

著書名：医療崩壊　「立ち去り型サボタージュ」とは何か
出版：朝日新聞社　小松秀樹著　1680円

今後中四国のカトリック医師会のメンバーで、定期的に情報発信をしていきます。取り上げてほしい内容など、ありましたら連絡いただければこたえていきたいと思います。

坂出聖マルチン病院　整形外科　田賀谷健一

委員会報告

司祭評議会・宣教司牧評議会

終身助祭誕生
～西川康廣師～

溝部司教は、教区内外において、長年伝道師として奉仕してきた西川康廣師を、高松教区付き終身助祭として叙階することを顧問会、司祭評議会、宣教司牧評議会に諮り、了承推薦を頂いたので、二〇〇七年三月二一日に叙階することを決定した。

助祭は、叙階の秘跡によって叙階され、ミサ、ゆるしの秘跡、病者の塗油の執行以外は司祭と同じ聖務に奉仕する。先の公会議まで助祭職は、司祭叙階の最終段階に位置付けられていたが、新約聖書では、食事の世話をする者として選ばれ（使徒六・一～六）、徐々に、教会の運営・管理などの重要な責任を担うようになってきた。一一月に祭壇奉仕者に選任され、叙階準備中の西川師は、叙階後教区事務所に赴任し、司教の手足となって教区全体のために働く。叙階は教区全体への神の祝福であり、教区民の大きな慶事である。

その他、一一月、一二月司祭評議会および拡大宣教司牧評議会において、主に次のような問題が審議された。

1　二〇〇七年度教区目標について

二〇〇七年度は、一八八殉教者の列福の年に当り、二年目を迎える協力宣教司牧態勢をさらに整えて、開かれた教会づくりに向かうという意味で、「宣教」を目標とする。アジア宣教大会で使用された「行って、宣べ伝えよ」をキャッチフレーズとし、「社会の中で殉教者の精神を活かそう」を副題とする。

2　小教区評議会の立ち上げと規約作成について

宣教司牧評議会は、教区の一致を目指し、殊に協力体制に入っている小教区が同じ歩調を採り、小教区の活性化を図るため、小教区評議会の立ち上げを提案し、その規約作成指針を発表した。各小教区はこの指針に基づき、一年間をかけて独自の規約を作成する。

3　諸宗教対話委員会、人権を考える委員会の立ち上げについて

高松教区は、宣教する教区を目指して組織の再編成に取り組んでいるが、なお二つの委員会の立ち上げに着手した。すでに、諸宗教対話委員会委員長には西川康廣師、人権を考える委員会委員長にはSrギリスが任命されている。この二委員会が立ち上がれば、教区本部の再編は一段落する。

4　ペトロ岐部と一八七殉教者の列福の年について

二〇〇七年は日本教会にとって特別な祝いの年となる。ペトロ岐部と一八七殉教者の列福式を有意義に迎えるために以下の行事を行う。

①　殉教者を想い、ともに祈る週間

・二月四日から一一日まで、殉教者を想い、ともに祈る週間である。殉教者列福調査特別委員会から、学び、分かち合い、祈るために、「手引き」が発行された。この手引書を使って殉教者の精神を身につけたい。

・委員会は、列福式の費用を三千万円とみている。既に献金を呼びかけているが、「殉教者を想い、ともに祈る週間」の二回の日曜日献金がこれに当てられる。

②　ディオゴ結城了雪神父を顕彰する集いを行う。

③　列福式

列福式は、一一月二三日に長崎で挙行される予定である。高松教区は二〇〇名の巡礼団を組んで、列福式に参加する。

生涯養成委員会

教区のテーマは「宣教」

1　二〇〇六年の主活動の中で

新年おめでとうございます。新しい年にお一人おひとりの上に神様の祝福が豊かにありますように心から祈っています。二〇〇七年には特に世界平和を祈り、平和を造るものでありたいと念じております。

二〇〇六年の生涯養成委員会の活動の一つは高松での「Nagasaki 1945 アンゼラスの鐘」の映画上映でした。一〇月七日、多くの人が観賞し、平和の大切さを実感していただけたと思っています。観た方々の中から、郡中教会の土曜学校の子供たちの感想文が届きましたので、いく

つかを分かち合いたいと思います。

「はだしのげん」をみていたので、同じようなのかと思っていたけれどちょっとちがっていました。

ばくはつ音が大きくこわいと思ったけれど、ばくだんが落ちたあと、かぼちゃをやいて食べていたところはおいしそうで、ほっとしました。

たいふうのところがおわったあとはこわくなくなりました。せんそうはだいきらいです。げんばくがせかいからゼロになってほしいです。

小学校二年　梅木りょうすけ

ばくだんが落ちてくるところが、とてもこわくて、目をつむってしまいました。

びょうきのひとが、せんそうでもっとひどいけがになってかわいそうだった。

台風でひなんするとき、歩けない人も、ひっしで歩いていた、とても苦しかったと思う。でもすごいけがで立てないひとが立てたときはすごいな！と思った。

小学校四年　高橋　保

家族の大切さを感じ取った子供さんもいたと聞いていますが、やはり次世代に残す大切な遺産は、戦争や暴力のない世界ではないかと痛感しました。

２　二〇〇七年の計画

本年度の教区のテーマは「宣教」です。大きな行事である殉教者の列福と結びつけて今年のテーマ、「信仰を自分の言葉で他の人に伝える」とか「宣教は何か」について話し合っています。

列福される殉教者の一人は徳島県生まれのディオゴ結城了雪神父様であるために、殉教関係の大切な行事を予定しています。

・「列福者を想い、ともに祈る週間」（二月四日～一一日）中の二月七日（水）午後二時からと夜の七時から、カトリック四国会館での溝部司教様によるご講演を二回行います。

・徳島でのお祝いの行事

九月一五日（土）、徳島市内の徳島県郷土文化会館にて、シンポジウムと一七世紀の音楽を組み合わせたプログラムを計画しています。次回の教区報にその詳細をお知らせします。

二〇〇七年の講座のやり方は基本的に今年と同じ形で計画しますが、「若者と聖書」の出張講座、ＭＥによる結婚生活のための講座なども本年度の計画に入っています。

青少年司牧委員会

新年早々教区高校生のつどい

第六回青少年司牧委員会が、昨年一一月一一日（土）午後三時からカトリック中島町教会司祭館で開かれた。この一年間、青少年委員会関係で催された行事が報告され、来年度の計画を確認した。

・高校生の集いが一月に四国カトリック会館で行われるに当たり、各県五名の高校生参加を目指すことを目標とした。

・青少年委員会内の青年部門と高校生部門に各県担当者を置くために、具体的な討議がなされた。

そしてホームページに掲示板を設置したので、幅広い利用を呼びかけることとした。

またホームページに馴染みの薄い方々に、ホームページ内に掲載されている内容をもとに、ニュースレターを年末か年度末に発行し、教区報と共に発送する予定。

・次回開催は一月一三日（土）午後三時から松山市道後教会にて。尚今回、委員会終了後、高知地区の青年たちと委員の皆さんとで、土佐の皿鉢料理を囲んで食事会を共にし、楽しいひとときを過ごした。

司教様を囲んで
「青年のつどいin高知」
（11/18，19芸西村の家）にて

青少年委員会ホームページに掲示板設置

http://www.youth.takamatsu.catholic.ne.jp/

青少年もそうでない方々も、どうぞご自由に掲示板に書き込んでください（内容によっては掲載されない場合もあります。ご了承ください）。

皆さんの書き込みを心よりお待ちしております。

各地区だより

徳島地区教区民のつどいに参加して

鳴門教会　橋本正士

一〇月一五日、溝部司教様をお迎えして徳島地区教区民のつどいが開催されました。

司教様の講話と分かち合いには、徳島県内の教会から七七名の参加者がありました。その後、海外から居住している方たちとの合同ミサがあり、約一五〇名の方が共に御ミサに預かりました。

司教様の講話の中で、聖体祭儀こそがカトリックとプロテスタントとの決定的な違いであるというお話が心に残っています。司祭が按手したその瞬間に聖霊が降り、パンと葡萄酒はキリストの体と血になる。そしてキリストの体をいただくことによって私たちはキリストと一体となる。これこそがカトリックの信仰であると話されました。按手を通して聖霊が本当に降り、パンと葡萄酒がキリストのからだと血に変わることを信じているからこそ、御聖体を拝領することでキリストと一つになり（キリストが私たちの中に来てくださる）キリストと共に生活することになる。御ミサがカトリックの信仰生活の中心であることをわかりやすくお話くださいました。

そして、キリストと一つになり、キリストと共に生活しているという、カトリックの信仰を改めて好きになりました。

ミサ後に集めたアンケートに応えてくださった方の中には「御ミサの朗読箇所を前もって読んでおく等、準備をしておきたい」「按手によって聖霊が降り、聖変化によってキリストのからだと血に変わるのは、私たち皆のためにそうなる。御聖体をいただくことによって、キリストが私たちを変えてくださる。このすばらしい秘跡に感謝。」「私たちが捧げる生贄に神は必ず応えてくださる。キリストと共に捧げる祈りは必ず聞いてくださるので、人々のため、世界のために祈りたい。」等々、たくさんのご意見がありましたが、全部を紹介できないのが残念です。

全員で記念撮影

この度の集いで得たお恵みが多くの実りとなりますように、日々、祈りを捧げたいと思います。

高知地区教区民のつどいに寄せて

江ノ口教会　岩本多恵子

二〇〇六年一〇月二九日、江ノ口聖園（みその）幼稚園ホールをお借りして、県下五つの教会から凡そ一五〇名の信徒、司祭、修道者が一堂に会し、教区の生涯養成委員長Srギリスも参加され、Br八木の司会で、溝部司教様の基調講話から入った。基調講話はテーマの「一致」「聖体」と、予め信徒から出された要望事項を盛り込んだもので話して下さった。要旨の一部を挙げると「主日のミサに与ることが一致に繋がる。大事にしなくてはならない。今教区に必要なのは、協力宣教司牧である」と強調され、又それに続く多くの信徒からの質疑・要望には丁寧に、そして山積する事柄への対峙姿勢を熱く、静かに語られた。司教ご自身の定年まで、後三年しかないこと、定年後は次の司教に譲り、留まる意思のないことなど、問題解決に一生懸命尽くしていくと述べ、若者への取組みも決して焦らずとも必ず花開く時の来ることを確信しておられるようであった。

午後のミサは溝部司教様、四人のオブレート会の神父様、それに諏訪神父様で行われた。ミサでは「エレミアの書」について説教され、「涙のうちに種播く人は喜びのうちに刈り取る」と答唱詩篇で歌ったが本当だと思う。「主は必ず涙を拭ってくださる」「必ず」と強く優しい口調は私たちの心に響いた。ミサの中では、安芸教会の山口貴子（たかこ）さんの堅信式も行われた。この山口さんは、一二月一〇日に結婚された。

山口貴子さんの堅信式

二〇〇六香川地区教区民のつどい

桜町教会　谷本千佳代

一一月五日「一致と聖体について」のテーマのもと、教区民のつどい香川地区大会が桜町教会、四国カトリック会館、桜町聖母幼稚園を会場に開

かれました。集まった方々は溝部司教様はじめ教区の神父様、三本松教会、聖ドミニコ宣教修道女会坂出修道院のシスターのみなさま、坂出教会、番町教会、丸亀教会、観音寺教会、善通寺教会、小豆島教会、国際宣教神学院の神学生、被昇天修道院のシスターのみなさま、桜町教会の神父様と信者二〇〇名ほどでした。番町教会の八尾様と河合様のリードのもと、玉入れやビンゴゲーム、○×クイズなど趣向を凝らせた内容に一喜一憂の楽しいひとときを過ごしました。香川地区の信徒が年令を越えて盛り上がったことは、なんと祝福されたひとときだったことでしょう。

玉入れがんばれ！

午後から司教様の講話があり、「ミサ」についてのお話でした。ミサは三部分からなっており、Ⅰ「みことば」、Ⅱ「奉献と秘跡」、Ⅲ「交わりと派遣」に分けて、私たちの心によく響くようにお話くださいました。

Ⅰ「みことばの朗読者は、ゆっくりとはっきりと味わうように読み、聞いている人々がみことばを味わえるように読むこと、先唱者はみことばがわかるように歌うことです。」

Ⅱミサの中でのご聖体について

「『まことに尊くすべての源である主よ…』というところで、聖霊は降って下さるように司祭は按手する。それによって聖霊が降るのです。パンとぶどう酒が、主のおんからだとおん血に変わる瞬間なのです。カトリック教会は、秘跡を信じています。パンそのものがキリストのからだになり、聖霊に満たされるのです。ミサはキリスト、イエスさま自身がいけにえとなってくださるのです。ミサは今苦しんでいる人、悩んでいる人、世界中の人々のために、イエスさまご自身がいけにえとなってくださるのです。私たちが、イエス・キリストと共にいけにえとして自分自身を捧げること、これによって私たちの願いは聞き入れられます。私たちはただ漠然としてミサに参加するのではなく、目的をもって聖堂に入ることです。ミサはいけにえです。イエス・キリストは私たちを使っておられます。あなたがたは、キリストさまをいただいたのだから、人々のために命を捧げなければなりません。私たちが人々の中で生きていくためにミサにあずかるのです。」と話されました。この結びの言葉は、私の胸に強く響き、ごミサに対する自分を顧み、深く反省させられました。

Ⅲその後のミサには皆が意向を持ってあずかり、社会の中へ派遣される私たち一人ひとりが喜びを持ってキリスト者としての務めを果たす決心ができたと思います。

他の教会の方々と楽しく交わり、教区民一致が実現された爽やかな一日でした。

カトリック徳島教会 創立百周年記念式典

二〇〇六年一一月二三日

一九〇六年、初代主任司祭アルバレス神父によって現在地に聖堂が建立された。そして聖パウロ三木に捧げられてより一〇〇周年の記念すべき年を迎え、この大きな節目を期して式典が厳粛に開催された。

高松教区長溝部司教ほか二七名の司祭と高松教区内外からの信徒二二〇名で聖堂は立錐の余地もなく賛美と感謝の祈りと歌声が響いた。ミサの中で五名に堅信の秘跡が授けられ、一名の初聖体拝領があった。

聖体拝領の後、記念式があり、司教の言葉、ドミニコ会ロザリオ管区日本地区長及びオブレート会日本管区長（欠席のため代読）の祝辞、来賓の祝辞と紹介等があり閉祭。

溝部司教は教会が創立された当時の内外の情勢に倣い、福音の宣教が如何に困難を極めたかを想い起こし、現代の社会においての教会としての使命を果たすようにと勧められた。

祝賀会は徳島駅前のホテルに会場を移し、来賓の方々も一緒に、寛いだ雰囲気の中で会食と歓談の一時を過ごした。来賓方の挨拶、司祭と信徒からの思い出話も披露されて、懐かしさと再会の喜びを噛み締めた方々の話し声が会場の各所にみられた。予定していた時間通り、感謝の内に式典の全てを恙なく終了した。神に感謝。

徳島教会　稲垣一男

お知らせコーナー

投稿記事募集

【テーマ】
いじめなど少年を取りまく事件・事故

【投稿要領】
字数は３００字以内（写真歓迎）
「所属教会名、住所、氏名」明記のこと。
中傷・誹謗はご遠慮下さい。
原稿はできるだけメールで送って下さい。
写真もデジカメで撮影したものはメールで送って下さい。

【投稿先】
メール：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
郵　便：〒760-0074
高松市桜町１丁目８－９
カトリック高松司教区広報担当
ＴＥＬ：087-831-6659
ＦＡＸ：087-833-1484

四国4県の高校生の集い 桜町教会で開催

主な司教日程

１月１日（日）～８日（月）
事務所休み
１月11日（木）　常任司教委員会（東京）
１月14日（日）　長尾聖母幼稚園父母に対する講話
１月16日（火）　講座「若者と聖書」
（四国カトリック会館）
１月18日（木）　教会一致週間（桜町）
１月20日（土）～21日（日）
高校生の集い（桜町）
１月22日（月）　教会一致週間（坂出）
１月23日（火）　講座「若者と聖書」
（四国カトリック会館）
１月26日（金）～28日（日）
東京神学院集中講義（東京）
１月30日（火）　講座「若者と聖書」
（四国カトリック会館）
１月31日（水）　ロザリオ学園研修会（松山）
２月１日（木）　常任司教委員会（東京）
２月４日（日）　「殉教者を思い、祈る週間」（平戸）
２月７日（水）　「結城了雪について」講義
（四国カトリック会館）
２月11日（日）　「殉教者を思い、祈る週間」
（四谷教会）
２月12日（月）　札幌教区宣教司牧評議会研修会
（北海道）
２月19日（月）～23日（金）
司教総会（東京）
２月27日（火）　宗教者平和会議
（四国カトリック会館）

編集後記

新たな年が始まりました。今年の秋には一八八殉教者の列福式が行われます。これに伴う献金の協力依頼もきており、すでに、各小教区に振り込み用紙が届いています。献金に協力しましょう。

◆今年は、高松教区報のコラム欄「はばたき」の筆者を鳴門教会の福田健一様にお願いしております。

◆また、カトリック医師会四国支部から「医療のともしび」と題して、毎号記事の提供をいただくことになりました。御期待下さい。

◆そのほか、投稿記事の欄を設けているのですが、未だに一件の投稿もないところから広報委員会で検討した結果「テーマ」を設けてみようと言う事になり、今回「いじめ等少年を取りまく事件・事故」を取り上げてみます。投稿を待っています。

（和泉文男）

今年もこのスタッフで頑張りますので、よろしくお願いします。

編集委員・広報委員一同

顧問　浜口末男神父
和泉文男　住吉才子
田井貞良　竹葉純子
長谷川聖　中越恵美
多田洋　今泉芳純
鶴見明彦　岡副俊雄
中川修栄　高田芙美